



関 せき
（創政会）

●前沢・胆沢・衣川に水沢病院(仮称)の建設を ●交付税の算定基準の検証は

質問 将来の高齢化対策として合併前の前沢では、医療・介護・福祉の総合施設を整備し、その役割は年々増してきており区民に大変な安心感を与えている。

突然の診療所の休床化の話が出て驚いた。住民自治組織連絡協議会より請願が出ているのは最

もの話である。奥州市の医療・介護の今後をどう考えているか。

市長 5年後、10年後の医療環境を考えると医師不足は必ずやってくる。救急・急性期医療に対して体制の整備が急務と考

える。

質問 水沢病院新築のプランが盛り込まれている。現在も繰越

欠損金が34億円もありながら、新築に関する財政計画が示されていない。市民負担がどれ程になるのかを示した上で、新築の是非を問うべきと思う。また水

沢病院の役割を根本から議論し、市民理解が得られたなら前沢・胆沢・衣川区に建設すべき。合併協議の区の均衡ある発展の観点からも、意味のある事と思う

がどうか。

市長 財政計画や建設の場所は

これからの協議となる。

質問 奥州市の歳入は、地方交付税が30%を超えていて重要な

歳入源となっている。最近国の算定基準が実態に合っていないと疑問視する自治体が出始めている。

秋田県の市町村は、県と連携して今月中に算定を求める意見書を提出するという報道もある。奥州市においても、合併し

ても財政が健全化していない。歳入確保の観点から、交付税の適応性について検証すべきと思うがどうか。

市長 歳入確保は奥州市の最大のテーマである。見直しについて

は検証したい。



医療・介護が整備されている前沢区の診療所



阿部 加代子
（公明党）

●ヘルスプロモーションカー(巡回診療車)の導入 ●「子ども安心カード」の取組み

質問 ヘルスプロモーションカー(巡回診療車)は、医療機器

や健康機器等を載せて、往診・訪問看護・健康診断・予防接種・健康教室等を地域へ出向き行う事が出来る。導入のメリットは、

「通院の負担が減る」「受診の機会が増える」「骨密度、血圧、血糖値測定で数値が見えるため健康教室、生活習慣予防教室への関心が高まるなど効果が期待されているが、市の導入の考えは、

市長 在宅による医療・保健・介護を包括的に進める上で有効的な取組みの一つと考える。まずは住民ニーズの把握、地域の受け入れ体制、運営体制や医療スタッフの確保などを検証し、導入について判断したいと考えている。

質問 子ども達が病氣、ケガ、食物アレルギー症状で救急搬送される際、学校等と救急隊と迅速に連携出来るよう、子どもの病歴、服用薬、各種アレルギー、かかりつけ医療機関、緊急連絡先などを記入する「子ども安心

カード」を作成すべきと考える。

個人情報提供の同意を得ておく事や、緊急時以外使用しない事など管理体制も整え、登下校中や学校等の施設外の事故にも対応するため携帯用カードの作成についての考えは。

教育委員長 平成24年度の学校等への出勤回数は16回。食物アレルギーの対応人数は小中学校87名、保育所93名。「子ども安心カード」は緊急時有用な手段の一つと捉えているが、個人情報なので保護者や学校関係者の意見を聞き検討する。



東通村の元気ですカー（青森県）